

# ミシン裁縫に就いて

シンガポールミシン 裁縫女學院長 秦利舞子

## ●●●●● ▲ミシン器械を使用する利益

衣服の裁縫上、シンガポールミシンを使用するときは、時間及び努力の點に於て非常な經濟になります。例へば襯衣の如きは、ミシンで縫へば、一日十五六枚も仕上げ程になりますから、其速力、到底手縫とは同日の論でございませぬ、又努力に就て見ても、ミシンの使用法と布帛の持方とを一通り心得さへすれば、其餘は器械が働きますから、自然と眞直に縫ひ得るやうになり、多くの努力は要しませぬ。如何なる家庭にても襯衣を着、袴下を穿く人は必ずあるもので、子供用の物より大人用の物に至るまで、一々之を購求するとなれば、大變費用が嵩まりますが、之を自宅で調へると、地質等の選擇自在にして、各自の肢體に能く適ふの外、努力だけが廉く仕上がるのです。又洋服が古くなつた時、裏返しを洋服屋に頼むと、歡んで應

ずる所がありません、それで、自然打棄つて置くか、古着屋へ捨賣にするより外、道がありませんが、ミシン裁縫の心得れば、自宅で裏返しが出るのみならず、大人の服を小供の服に縫ひ直すことも出来、家庭經濟上益する所多きは言を俟たぬ次第であります。

## ●●●●● ▲職業としてのミシン裁縫

前陳の如く、ミシン裁縫は、器械自身が働くものなれば、努力と時間との節約大なるものであります。すが、更に所得の點に就いて見ても、少し勉強すれば、一ヶ月十五圓位の収入は容易であります。故に女子の技藝的職業として、之を以て世に立つには誠に適當と思はれます。現に我校の卒業生中には、呉服店等の仕立物を引受け、女の細腕にて一家族の生計を支へて居るものがあり、又自身唐物店を開いて、特別の誂物は勿論、一方には裁縫店の仕入物を請合つて立派に生活して居るものもあります。彼の襯衣屋のお鐵さん杯は、襯衣の裁縫のみを内職にして、優に四人の家族を養て居ります。又ミシン裁縫を職業とするものの中には

襯衣なら襯衣、小兒服なら小兒服、と專賣的に營業するものと、何品でも引受けて營業するものと二種あります。前者は後者よりも遙に收益が多いやうです。獨り裁縫業者のみに限らず、總ての職業は、皆其掬を一にするもの、如く、彼方も此方も喰ひ掛けるよりは、一方に専心努力する方が事業の進歩が善いやうに思はれます。我が校にては、速に収入を得たいといふ希望者のため、特に營業部といふものを設けて居りますが、兎も角も營業部と稱する以上は、製作品の販賣上、世間一般の營業者と競争して行かなければなりません。若し他店では廉い、學校では高いといふ様な評判を受けては、競争に打勝つことが困難です。依て此等の業務に従事する人々に對しては、就業時間なども嚴しく履行して居ります。一體女子は虚榮心に富める結果として面會者でもあると、冗談の爲に時間を費す癖あり、之がため自然収入を減するといふ弊害が起ります。故に苟くも職業として従事する已上は、十分の覺悟を要すべくその覺悟如何に因りて所得上に大差を生ずることに注

意せねばなりません。又ミシン刺繡は米國婦人の發明に係るものでありますが、シンガーミシン會社の技手長尾氏が、公務の傍之を研鑽して其濫與を極められました。我が校では一週二回づゝ之を教へて居りますが、世等の技術も漸次練磨の功を積みましたならば、將來は適好なる一種の職業となるであらうと思はれます。

▲ミシン裁縫とその普及法

世間には、ミシン裁縫は、單に洋服類に限り、和服には應用が出来ぬものと思ふ人も多いやうですが、之を和服に應用することは決して難事でありません。否、大變便利で、現に應用して居る人は幾干もあります。就中子女の多き家庭に於て、木綿物に使用するときには、誠に徳用です。又絹物も決して縫はれぬことはありません。ミシンで縫へば孔が穿くとか、解くに困るとか、疑ふ人もありませんが、絹物には絹物相當の針を使へば、些も如態配慮なく、又解くに困る杯といふ事は、調子の取方と糸の扱ひ方とを知らぬから起るのです。其方法だに宜しきを得ば、寧ろ絹物は、木綿物よ

り適當して居るのです、故に此等の効益が世人に知悉せらるゝ曉に至らば、ミシン裁縫か必ず一般家庭に普及するに相違ありません。但だミシン器械は廉く買はれず、殊にシンガミシン器械は普通のミシン器械よりも高價であります。是は器械が非常に精巧で且つ輕く、附屬品も多く、耐久力も非常に長くして、一代も二代も使用し得る特徴あるためであります。唯遺憾なるは、此等の器械が多くは輸入品にて、和製には精巧なるものなく、中流以下の家庭に備へしむるに困難なる事でありませす。

貧困者は無論西洋にもありますが、彼地の貧困者は、大抵共同貸家の一室を借りて住んで居りますから、同一家屋の中に住んで居る人々は、共同で一臺のミシン器械を買ひ、毎日順番に使用する様になつて居ります。故に日本に於ても、之を中流以下の家庭に普及せしむるには、此輪用法に頼るより外、策がありませせん。然るに日本では、西洋の如き共同生活の風未だ發達せず、彼地の方法を其儘採用すること難ければ、此點は餘程攻究を要

する次第であります。併し社會生活の進歩するに従ひ、我邦に於ても、衣服製作上、器械裁縫の漸次手縫に代はるべきことは瞭かにて、他の器械的技藝が皆改良されて行くのに、獨り裁縫のみ舊式を墨守することも出来ませすまい。一例を擧ぐれば、米國の如きも、最初は衣服は手縫でありましたが、人文發達し、時間を重んずる思想の進歩するに伴れて漸次廢れました。日本人は未だ外國人ほどの時間を尊ぶ觀念強からざるより、手縫で間に合せて居るけれども、將來時間の貴重なることを悟るに至らば、自然一般に普及すべきことは、疑ひを容れぬ所でありませす。

▲和服改良に關する意見

日本服は、頗る不完全、不體裁なる服装なれば之が改良は早晚必ず起つて來る所の問題と信じます日本人は、古昔は皆裳を着け、帽子を冠つて居りました。中古武家時代に及んで大に簡略になつたのであります。兎に角和服を改良するには、先づ裾の方より着手するが順序なるべく、其美は専ら袖があるためなれば、袴には私共の考案に係る

和服用スカートに應用して、袖は成るべく其儘保  
存して置きたいのです。これは勿論和服改良の初  
歩に過ぎませぬ。

或人は、日本人の服装は是非改良しなければなら  
ぬ。第一長い袖は不必要なものである、若し全  
民が袖に用ゐる布帛を節約したならば、經濟上非  
常な利益であらうといふ説を唱へて居りますが、  
是は一體美といふものを度外視したる論で、若し  
日本服より袖を除けば、とても見られた物であり

ませぬ、就中女性には美を重んじますから、此説は  
實行さるゝ事が困難です、其證據には、彼の所謂  
改良服の如き、少數の子女に使用せらるゝ外、毫  
も流行せぬ所を見ても解ります。

日本人の衣服を改良するならば、先づ腰以下を切  
捨てた方が宜からうと私は思ひます、依て種々  
夫を疑したる結果、袴を改良して和服用スカート  
を案出し、遂に實用新案の登録を得ました。今日  
女學生は大抵袴を着けて居りますが、裾が開いて

居らぬため、行燈のやうな形状を爲し、又ズル／＼  
降つて、袴下の紐が見えて、随分見苦しいのです

故に洋服用スカートを和服に應用したら便利かと  
思つて着手しました、處が西洋人は、コルセット  
を當て、腰圍を締めて居りますから都合が宜いが

日本人は中々さうは參りません、或は腹巻をする、  
或は種々な着物を重ねる、又季節に依て服装が異  
ふ、その結果、夏季用、冬季用といふ風に、幾種  
類のスカートを備へなければならぬといふ不便が  
起ります、故に之を應用する己上は、季節の如何  
を問はず、何時でも使用し得るものでなければ効

力がないので、苦心研究の末、和服用スカートを  
案出したのであります。此スカートは腹部の周圍  
を自在に伸縮し得べく、衣服を重ねた時でも、又  
薄着の時でも共通するし、見つけ柄が好くて非  
常に格好が良く、決して袴の如くズルズル降る累

もありません、それで近頃は大方擴つて參りまし  
た。

和服を改良するならば、寧ろ洋服に變へた方が宜  
からうといふ論者もありませんが、是には私も至極

同感であります、洋服にせよ、和服にせよ、今日  
の服装に達する迄には、幾多の變遷と改良とを経

たるものなれば、和服は和服として其發達の頂點に達し、洋服は又洋服として其發達の頂點に達したのであります、従つて之を折衷したる改良服は、其何れよりも劣ること勿論なれば、和服兩式中孰れか一方を擇んで用ゐる事が必要です、然るに現今の和服は種々の點に於て洋服より劣り居れば、早晚洋服にする時代が來るのであります、服装を洋服に改良しようといふには、先づ住家の改良から着手しなければなりません、此住家の改良問題が快く解決せられる後、始めて洋服が一般に使用される、事でありませう。

▲ミシン裁縫と婦人病との關係

女子がミシン裁縫に従事すると、住々婦人病に罹る虞あるやうに思はれ、練習を希望する女子の間にも、之を恐れて修練を避くる傾向があります、是は全然謬想です。元來日本婦人の下着は不完全を極め、椅子にでも腰掛けると直ぐ風が下から入るやうな製作法なれば、椅子を使用する際には、豫め之に對する準備を爲すことが肝要です。西洋諸國の家庭にては、一般にミシン器械を使用し

居るに拘らず、其爲に婦人病が多いなど、いふ事を聞きません。是が果して事實ならば、所謂婦人病は、器械裁縫の結果として起るものに非ずして衣服の不完全、其他衛生上の不注意に基くのではあるまいかと思はれます。以上、ミシン裁縫に就いて、平素考へて居ります、家事經濟上の關係やら、女子職業上の關係やら、其他のことを、概略ながら御話し致した次第であります。

占相

なにかし

人相、手相、筆相、などにて色々の占ひ事あるは人のよく知れる所なるが左に述ぶる諸相にも幾分の占ひ得る所あるにや讀者の御感に迄記して見ん

歩き方の相

○貴上の人は自然と其體重くして脚軽く貧賤なるものは身軽くして脚重し、故に貴人は歩むに身